



psychologist

Bulletin of the Graduate School of Professional Clinical
Psychology, Kansai University

Contents

Akira IKEMI, Yusuke TSUTSUI, Tomoko HIRANO, Shimpei OKAMURA, Hideo TANAKA, Hiroshi SATOH, Toshihiro KAWASAKI, Kazumi SHIRASAKA, Yasuko ARIMURA, Seiji YAMAMOTO, Yosuke KOSHIKAWA, Kumiko SAKAMOTO Crossing with Animals: An existential exercise emerging from the Theory of Experiencing	1
Atsushi ISHIKURA, Akiko KIYOSAWA, Yuta TANAKA, Yuuna HARADA, Yui HORIKAWA, Yukishige NAKATA Personal Curriculum of Junior Clinical Psychologists after Graduation from Graduate School —Exploratory Examination of Transformation/Change through PCAGIP Method—	13
Koki ODAHARA, Shiho MIYAGAWA, Ai SAGAWA, Ayaka MORIYA, Ryoya SHIMADA, Miku USHIROYAMA, Akira IKEMI Japanese Research on Focusing: 2013-2018	23
Yuko ARAIE, Kazuki HORII, Shun KUROKAWA, Natsumi MORITA, Yuri OURA, Yukishige NAKATA Community Clinical Psychological Support of an Evening High School (IX)	45
Junko HYO, Shigenori TERASHIMA Development of assessment tools for the patients with chronic pain	53
Hiroko NISHIDA, Shigenori TERASHIMA Japanese work style and “Work-style reform”: The problem of reducing long working hours and introducing telework.	61

Number 9
March 2019

関西大学
臨床心理専門職大学院
紀要

第9号
2019年3月



psychologist

関西大学 臨床心理専門職大学院 紀要

目次

池見 陽 筒井優介 平野智子 岡村心平 田中秀男 佐藤 浩 河崎俊博 白坂和美 有村靖子 山本誠司 越川陽介 阪本久実子 アニクロ：体験過程理論から見出された実存的なワーク	1
石倉 篤 清澤亜希子 田中雄大 原田祐奈 堀川優依 中田行重 若手心理臨床家の指定大学院修了後の歩み —変化・成長をめぐるPCAGIP法を通じた探索的検討—	13
小田原康貴 宮河志帆 佐川 愛 守屋彩加 島田諒也 後山未来 池見 陽 日本におけるフォーカシング研究文献2013-2018	23
新家結子 堀井一希 黒川 隼 森田菜摘 尾浦有梨 中田行重 定時制高校に対する地域臨床的支援の試み（その9）	45
兵 純子 寺嶋繁典 慢性疼痛患者を対象にしたアセスメントツールの開発について	53
西田裕子 寺嶋繁典 日本人の働き方と「働き方改革」 —長時間労働の是正およびテレワーク導入の課題—	61

Number 9
March 2019

執筆・投稿規定

1. 原稿の内容は未公開のものに限る。執筆者（主著者）は、関西大学臨床心理専門職大学院の教員、大学院生、及び臨床心理学関連専攻を修了した者とする。その他の著者については、編集委員会が本学の活動に寄与すると認める場合、掲載することができる。
2. 本誌では事例研究論文は原則として受け付けない。事例研究以外の研究においても執筆者は論文の内容および研究方法について、人権の尊重に責任を持ち、可能な限り対象者の了解を得ることとする。論文にケースが含まれる場合は、記載する情報を最小限にして、プライバシーの保護に十分配慮すること。研究・論文作成上の配慮の方法に関しては、関西大学大学院心理学研究科研究・教育倫理綱領に従う。
3. 原稿は原則として MS-Word で作成すること。ページ設定は A4（縦）横書きで、1 ページは 1200 字（40 字× 30 行）とする。日本語の論文は常用漢字・現代仮名遣いを用い、数字は算用数字を用いること。読点は「、」、句点は「。」とする。
4. 原稿の枚数は 12 枚以内とする。ただし、編集委員会が認める場合にはこの限りではない。図表はその大きさを本文に換算して枚数に算入すること。
5. 原稿には表題、著者名、所属とそれぞれの英文表記を記し、要約（600 字以内）・キーワード（5 項目以内）及び英文 abstract（300 ワード以内）・Keywords（5 項目以内）を付け、次の順で構成する。表題、英文表題、著者名、所属、著者名と所属の英文表記、要約・キーワード、英文 abstract・英文キーワード、本文、付記、文献。なお、脚注は文末とし、参考文献の前に配置する。
6. 図表や写真は本文とは別のページに入力するか、あるいは別に添付し、図 1、表 1 など通し番号をつけ、それぞれに題と内容を日本語又は英語で記すこと。図の題はその下部に、表や写真の題はその上部に付ける。また、本文中の挿入箇所を明示すること。
7. 原稿は指定されたメールアドレスに添付ファイルとして送信すること。添付ファイルは MS-Word またはテキスト形式とする。
8. Th・Cl などの略語は、記述が重複して煩雑になるのを避けるために用いる場合のみ、初出の際にその略語の意味を明示した上で使用すること。
9. 外国の人名、地名等の固有名詞は原則として原語を用いる。その他の外国語はなるべく訳語を用いること。外国語を用いる場合には、初出の際、日本語読みを（ ）内にカタカナ表記する。
10. 本文中に文献を引用した場合は、引用した箇所を「 」でくくるか両端のインデント幅を大きくして明示すると同時に、著者名又は論文名と公刊年を記載し、著書からの引用は引用ページを表記すること。訳本の場合には、カタカナで著者名と訳書の発行年を記載すること 例、（ラバポート, 2009, p.17）。著者が複数いる場合は、3 名までは著者名を挙げ、それ以上は和文献であれば ‘ら’、洋文献であれば ‘et al’ を用い省略して記載する。
11. 引用・参考文献は、論文の最後に、著者名のアルファベット順に一括して記載すること。文献は下記のように記載する。

（日本語著書）
中田行重（2003）：キャンパスにおけるコミュニティ・アプローチの展開 村山正治（編）『コミュニティ・アプローチ特論』日本放送出版協会 pp.89-100.

（外国語著書）
Rogers, C. R. (1951): *Client-centered Therapy*. Boston, Houghton Mifflin.

（訳書）
ラバポート, L. (2009)：『フォーカシング指向アートセラピー』誠信書房 Rappaport, L., *Focusing-Oriented Art Therapy*. London, Jessica Kingsley Publisher, 2009.

文中に記載する場合：ラバポート（2009）
原文からの引用を文中に表記する場合：Rappaport（2009, p.12）は“we lean to draw....”
翻訳からの引用を文中に表記する場合：ラバポート（2009, p.15）は「私たちは言葉を話せるようになる前に…」
- ① 雑誌の場合：著者名、公刊年（西暦）、論題、誌名、巻、号、記載頁の順で記載する。
雑誌名の記載に際しては、「心研」[*J.Clin.Psychol.*] といったような略記はしない。なお、雑誌名も書名と同様に『 』にくくるか、欧米言語の場合はイタリックとする。巻、号、ページ数については次の例のように表記する。31(2)：46-57 (31 巻、2 号、46-57 ページ)。(例) 岡村心平（2011）：暗黙的機能の観点から見た心理療法のための一考察：ジェンドリンのフォーカシング・セッションより『サイコロジスト：関西大学臨床心理専門職大学院紀要』1：41-50.
- ② 単行本の場合：著者名、発行年度（西暦）、『書名』、発行所、引用頁の順序とする。外国語の著書は書名をイタリックとし、発行都市名、発行所、引用頁の順とする。
ただし編者と担当執筆者の異なる単行本の場合は、該当執筆者を筆頭にあげ、以下、発行年度、論題、編者名、『書名』、発行所、頁の順とする。
- ③ 同一著者で 2 種以上の文献がある場合は発行年度順とし、さらに同年度に同一著者の 2 種以上の文献がある場合には 2000a、2000b のように区別して記載すること。
12. 英語で論文を投稿する場合の字数は 4000-6000 ワードの範囲内とし、日本語題目、日本語抄録、日本語キーワードを付け、また所属が日本の研究機関等の場合は日本語でも所属を記すこと。
13. 印刷上特別の費用を要する事情が生じた場合は、当該執筆者により負担すること。
14. 執筆者には論文抜き刷り 20 部を贈呈する。それ以上は執筆者の負担とする。
15. 原稿の採択は関西大学臨床心理専門職大学院紀要編集委員会によって決定を行う。
16. 本誌に掲載された論文等は、関西大学学術リポジトリに掲載する。
17. 本誌に掲載された著作物の著作権は、当該著作物（抄録・要約を含む）に関する複製及び公衆送信を関西大学臨床心理専門職大学院に対して許諾したものとみなす。

以 上